

◎ 2017年度同門会理事長賞受賞



医療法人社団昂会 日野記念病院 外科

児玉 泰一 (平成 20 年卒)

この度、同門会理事長賞という大変名誉ある賞を頂き、心より感謝申し上げます。この研究は私が大学院生のときに取り組んだもので、胃癌の癌幹細胞の腫瘍浸潤最深部での存在意義を検証したものです。受賞対象となりました論文の内容を要約させていただきます。

当院での胃切除術後患者 123 例の病理標本で胃癌の癌幹細胞マーカーとして報告されている CD44 isoform (CD44s, CD44v6, CD44v9) の免疫組織染色を行い、腫瘍浸潤最深部でのこれらのマーカーの発現が胃癌切除後患者の予後と有意に関連していました (Figure A, B, C)。フォロー中の初発再発形式を調べると、腫瘍浸潤最深部 CD44s の発現はすべての再発形式 (腹膜播種再発、リンパ節再発、血行性再発) に有意な関連を認めました。さらに腫瘍最深部で CD44 isoform は多種類発現しているほど予後が悪く、予後を層別化することが出来るという結果でした (Figure D)。以上の研究結果は「Prognostic impact of CD44-positive cancer stem-like cells at the invasive front of gastric cancer」というタイトルで 2017 年 1 月に British Journal of Cancer に掲載していただきました。

私がこのような研究成果を出すことが出来る環境を与えてくださり、ご指導いただきました外科学講座 (消化器・乳腺・一般外科) 教授 谷 眞至先生、また実験のご指導やデータ分析や論文の書き方などご指導いただきました村田 聡先生に、この場をお借りし心より感謝申し上げます。

英語論文を完成させアクセプトされるまでの過程は、自分にとってかなり大変な作業でありパワーを必要としました。しかし、今回の栄えある受賞をきっかけに今後も日々の研鑽と努力をしていく所存ですので、外科同門会の先生方には、今後も変わらぬご指導とご鞭撻を何卒よろしくお願い致します。

